

令和 6 年度
学校関係者評価 報告書

令和 7 年 3 月 14 日実施
学校法人 エイシンカレッジ
日本ビジネス公務員専門学校

令和7年4月5日

令和6年度 学校関係者評価報告書

学校法人 エイシンカレッジ
日本ビジネス公務員専門学校
学校関係者評価委員会

学校法人 エイシンカレッジ 日本ビジネス公務員専門学校 学校関係者評価委員会は令和6年度自己点検・自己評価報告書の結果に基づいて学校関係者評価を実施しましたので以下のとおり報告致します。

1. 基本方針

本学における学校関係者評価は学校自己評価（項目別の自己評価表）を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。

また、公表については「日本ビジネス公務員専門学校 学校評価実施規定」に則するものとする。

2. 出席者一覧表

名前	役職	所属（企業・団体名）
＜学校関係者評価委員＞		
松井 良太	支店長	(株)エイエイピー 新潟支店
田代 克郎	常務取締役	アートビジネスサプライ 株式会社
＜事務局＞		
横山 孝	学科長(ビジ)初	日本ビジネス公務員専門学校
田所 尚子	学科長(医療)	日本ビジネス公務員専門学校
岩根 英二	学科長(公務員)	日本ビジネス公務員専門学校
＜進行＞		
小林 幹直	事務局長	日本ビジネス公務員専門学校

3. 委員会次第（概要）

- ・開催日時 令和7年3月14日（金） 15:00 ～ 16:00
- ・実施場所 長岡こども福祉カレッジ 5F 教室

(1) 自己評価に関する改善討議

- ①教育理念・目標 ②学校運営 ③教育活動 ④学修成果
⑤学生支援 ⑥教育環境 ⑦学生の受入れ募集 ⑧財務
⑨法令等の遵守 ⑩社会貢献・地域貢献

(以上の評価項目に関するご意見・ご提言を頂いた)

(2) 委員による総括

4. 学校関係者評価委員による評価・指摘事項

① 教育理念・目標

- ・次年度より学校名が変更となった経緯を説明。
- ・ITやAIが加速していく世の中の変化を授業内容にも取り入れてほしい。
- ・医療事務分野では、「医療報酬請求事務能力認定試験」の2025年度末廃止に対応するよう、就職状況に合わせて検定試験の変更及びカリキュラムの再考をしてほしい。

② 学校運営

- ・学校、学科の運営会議の機会を増やし、情報共有が密になったことは評価できる。
- ・IT化への取り組みや生成AIの活用はもっと進める必要があるのではないか。教職員のスキルアップのための研修や使いやすいシステムの変更など取り組んでほしい。

③ 教育活動

- ・職業教育に対する外部関係者からの評価を各科で実施できている。
- ・試験対策として、毎年カリキュラムの見直しを図ることで、今年度公務員試験の合格率が100%になったことは評価できる。
今年度で満足せず常に100%を目指して研究と改善に取り組んでほしい。
- ・卒業生徒のネットワークを構築し、活用していったらどうか。
- ・教員間での授業見学をもっと実施したほうがよいのではないか。

④ 学修成果

- ・通信制卒業の生徒増加にともない、休学者・退学者も増加傾向にある。
- ・学びやすい環境を提供するために、オンライン通学併用コースを設置。
環境整備も重要だが、多様な生徒への対応に関する研究、研修の必要なのではないか。

⑤ 学生支援

- ・前年同様、公務員試験の面接試験対策がよく考案されている。学内で役割や情報共有がなされていて評価できる。
- ・スクールカウンセラーの必要性も検討していく必要がある。
グループ内の学校で、社会福祉士免許を取得している職員も在職しているので、グループ内で連携して対応することも可能なのではないか。

⑥ 教育環境

- ・昨年度の報告であった地震を想定した避難訓練を実施して点は評価できる。
- ・留学生も理解できるような訓練を実施してほしい。

⑦ 学生の受入れ募集

- ・私費留学生の入学につながる施策が必要ではないか。
- ・受験生だけでなく、保護者向けの説明会を実施し、また保護者参加による学費支援を行っていることは評価できる。

⑧ 財務

- ・財政基盤に関して問題ないと判断できる。
- ・インボイス制度に対応した経理業務がなされている。

⑨ 法令等の遵守

- ・自己評価や学校関係者評価が適切に実施でき、課題発見のきっかけになっている。
- ・志願者、在校生および卒業生の個人情報 that 適正に管理できている。

⑩ 社会貢献・地域貢献

- ・多くの学生にボランティアの機会を与えられるよう、積極的に情報収集をしてほしい。特に市外の生徒は地元での参加を促し、評価に加えてもいいのではないか。
- ・学校設備や知識を地域へできるよう資源の利活用をもっと進めてほしい。

～学校関係者評価の総括～

令和6年度の学校自己評価として10項目の内容を確認した。

IT化や生成AIの活用など社会の仕事が大きく変化していることを共有し、専門学校は職業に直結した学びの場であり、その「仕事」が変わろうとしているので、学校側も変化に対応していくことの重要性を改めて認識できた。

時代や世の中の変化に対応でき、社会に貢献する人材を育成できるよう委員も引き続き協力していきたい。